

## 第 6 1 回岐阜県学校保健研究大会を終えるにあたり

第 61 回岐阜県学校保健研究大会実行委員長

野田 宜輝

新型コロナウイルス感染流行下、第 61 回岐阜県学校保健会研究大会が揖斐郡で開催されました。思い起こせば、令和 2 年 4 月に第 1 回実行委員会が開催され、それ以降何度も委員会を開催しました。しかし、コロナ下のため、参加人数、開催形式(昼食をとっていただくのかどうか)について県学校保健会の方針が決まらず、最も大切な予算も決まらないため、2通りの計画を併行して進めておりました。

過去西濃地区開催の岐阜県学校保健研究大会をみると、他の学校保健会から補助をもらってやっと収支が合っており、今回は変えていきたいとの思いが強くなりました。令和 4 年 5 月になり県学校保健会会長の英断により、以前より時間を短縮し、12 時 45 分開会 15 時 40 分閉会、昼食なしという基本計画が認められました。その結果やっと予算が決定しました。その後もコロナ第 7 波により、出席者数の再検討や Web のみでの開催の検討を行ない、さらに会場を新型コロナワクチン集団接種で使用する事になり、他会場案が再浮上するなど、直前まで様々な問題の対応に追われておりました。また研究発表の見直し変更が直前まで何度もあり、担当の先生方は、自分の時間を削って対応する事になり、多大な負担をかけることになりました。このような苦難を乗り越え、本日大会を終えることができ本当に感慨深いものがあります。

本大会は、「ポストコロナ時代を生き抜く力を持った児童生徒の育成～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～」のテーマの下、研究発表では、自らの健康を守ると共に、周りの人々の健康にも働きかける事ができる児童生徒を育成するために保健主事、養護教諭が三師会と連携しながら実践してきた事に関する発表を行い、次に保健主事、養護教諭の取り組みに対して、学校保健会及び三師会がどのような支援や普及活動をしてきたのかについて発表しました。記念講演を行っていただいた「こころとそだちのクリニックあすなろ」の院長加藤智美先生には、新型コロナにかからないようにという措置の一方で、そのデメリットがあまりに軽視されていないか、休校、部活や行事の中止がもたらすその後一生にわたるかもしれない負の影響を、大人は考える必要があるのではないかという内容のお話をお願いしたいと依頼し、話しにくい内容にもかかわらず快く受けていただきました。心より感謝いたします。

この研究大会が、子供たちが自分の心身を意識し、守り、生き抜く力をつけてもらえるようになるための大人の役割を考えていく機会になり、各地での学校と三師会の関わりのヒントになったのなら幸いです。

最後になりましたが、岐阜県学校保健会様、岐阜県教育委員会様のご支援に感謝申し上げます。さらに揖斐郡教育委員会様、揖斐郡三師会、揖斐郡学校保健会の力添えでここまで準備が進められましたこと、お礼申し上げます。